研究業績

二次検診未受診者の実行要因

－アンケート調査を試みて－

厚生連高岡総合検診センター
渋谷 直美，佐武千佳子，沼田絵り子
小林 昭子，福田久美子，坂次 順子
作道 康子

はじめに

当センターは，平成2年に開設され5年が経過した。年間約5,000人が日帰りドックを受診し，3～4割の人が要二次検診（要精密検査）という結果になっている。当センターの二次検診受診率は70～80%となっており，平成6年度の二次検診受診状況調査より，二次検診受診率は男性の20歳代や40～50歳代が低かった。また，臓器別にみると乳房・肝臓・循環器は高位を占めたが，糖代謝・血液・脂質においては低いという結果を得ている。

検診を受けるという行動は，検診を受けない人に比べて健康に対する関心が高いはずである。にもかかわらず，二次検診を受ける人と受けない人がいるのはなぜか。受けない人はどんな傾向にあるのかを明らかにする目的で，アンケート調査を行なったのでここに報告する。

調査方法

期間：平成7年6月12日～平成7年8月24日
対象：当センター日帰りドック受診者全員
測定用具：宗像[1]による
　生活行動に対する保健行動の優先性尺度
　病気一般に対する脆弱感尺度
方法：検診当日朝，アンケート用紙を配布しドック終了時に手渡し回収する無記名自記式質問紙法

用語の定義

アンケートから二次検診未受診者を抽出し対象群として二次検診受診者を抽出した。二次検診未受診者としては，当センターの過去検診状況を確認し，二次検診未受診の場合を未受診者とした（以下，未受診者とする）。二次検診受診者に関しても，過去検診受診状況で二次検診を受診している場合は受診者とした（以下，受診者とする）。

結果及び考察

1）対象者の背景

解答者1,076名，解答もれのあった場合は再度促し，有効解答は1,074名。未受診者118名，受診者589名，初回受診者及び検診歴で要二次検診がない者が367名であった。年代別性別対象者を表1に示す。未受診者男66名・女52名，受診者男237名・女352名で女性の方が二次検診受診者が多かった。

宗像[1]によると，家庭や職場で人間関係が良好で生きがいがもて，また，自分が病気になることで相手に迷惑がかかることを避けようと意識しており，日頃から問題や悩みに積

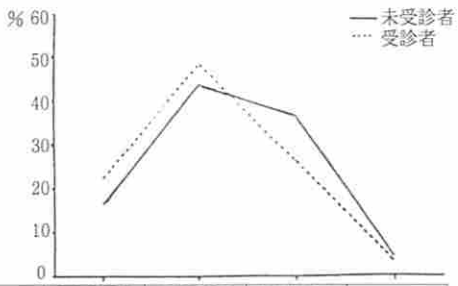
表1　年代別性別対象者集計

年代別	アンケート総数		未受診者		受診者	
	男	女	男	女	男	女
～29才	3	5	0	0	0	0
30～39才	28	37	0	2	10	11
40～49才	100	129	16	14	33	71
50～59才	131	231	30	23	67	132
60～69才	158	196	19	12	92	131
70才以上	43	13	1	1	35	7
合計	463	611	66	52	237	352

極的に対処するタイプが，予防的保健行動をとるという（予防的保健行動とは，自覚症状はないが病気予防のために行なう行動をいう）。女性は，要二次検診と指摘された時，信頼できる人に相談したり，病気になったら家族に迷惑がかかるから確認しておこうと行動するため，二次検診受診率が高いのではないかと考える。男性は二次検診受診には積極的な行動をとらないで，他人に相談することはせず，中には家族にさえ相談せず，仕事が忙しいから・精密検査は怖いから等を理由に逃避的行動をとると考える。

だが，二次検診受診を促す場合，『男性だから二次検診受診率が低いのはしかたがない』ととらえるのではなく性差にこだわらず，個人の置かれている環境や仕事にあわせたとらえ方も必要と考える。個人の背景・社会的立場・大切な時間の負担が最小限に押さえられるように心配りをして，女性も男性も二次検

図1　病気になると他のことを犠牲にしても休養しようとする方である



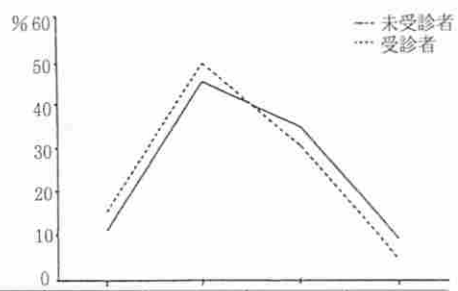
	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	16.1	43.2	36.4	4.2
受診者	22.1	47.9	26.1	3.1

表2　病気になると他のことを犠牲にしても休養しようとする方である

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	70名	48名
受診者	412名	172名

$P<0.05$

図2　いくら仕事がたまっていても健康のために無理しない方である

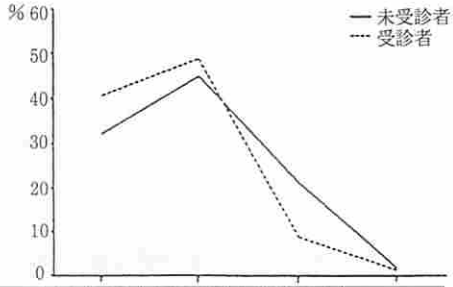


	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	11.0	44.9	34.7	9.3
受診者	15.4	49.0	30.4	4.6

表3　いくら仕事がたまっていても健康のために無理しない方である

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	66名	52名
受診者	380名	206名

図3　生活の中で最も注意しているのは健康のことである



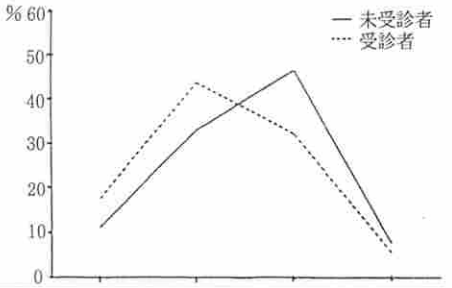
	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	32.2	44.9	21.2	1.7
受診者	40.6	48.7	8.8	1.2

表4　生活の中で最も注意しているのは健康のことである

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	91名	27名
受診者	526名	59名

P<0.001

図4　ちょっとした病気でも休養をとりまず治すことを考える方である



	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	11.0	33.1	46.6	7.6
受診者	17.5	43.9	32.1	5.6

表5　ちょっとした病気でも休養をとりまず治すことを考える方である

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	52名	64名
受診者	362名	222名

P<0.001

診をうけやすいように個人の優先度を考慮した上で，今後も継続して二次検診を勧めていきたいと思う。

2）保健行動の優先性尺度について

保健行動の優先性を設問別に図1～図4に示した。この4つの設問のうち（1）（3）（4）に受診者と未受診者の間に有意差がみられた。有意差は「大いにそうである・そうである」と「あまりそうでない・そうでない」のχ^2検定により求めた。設問（1）の「病気になると他のことを犠牲にしても，休養しようとする方である」では，大いにそうである・まあそうであると答えた人は，受診者70.0%に対し未受診者59.3%，あまりそうでない・そうでないと答えた人が，受診者29.2%に対し未受診者40.6%であった。未受診者の方が病気になっても他のことを犠牲にしてまで休養しない傾向が強かった。

設問（3）の「生活の中で最も注意しているのは健康のことである」では，あまりそうでない・そうでないと答えた人が受診者の10.0%に対し，未受診者は，22.9%であった。未受診者の方が受診者と比べて，生活の中で最も注意しているのは健康ではないと答えている者が多かった。

設問（4）の「ちょっとした病気でも休養をとり，まず休むことを考える方である」で

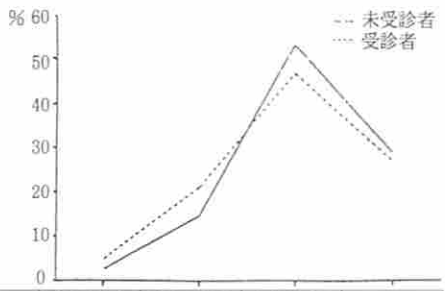
は，未受診者のあまりそうでない・そうでないと答えた人が54.2％と半数以上を占めていた。未受診者は，ちょっとした病気では，休まない傾向が強かった。

これらの設問より，未受診者の方が受診者より保健行動の優先性が低いという結果を得た。未受診者と受診者は共に，検診を受ける等して健康に対する関心は同様に高いはずである。だが，未受診者は二次検診を受けるという保健行動より，むしろ，保健行動以外の生活行動を優先させていた。では，未受診者が優先させる行動は何なのかを考えると，仕事が忙しくて受診する時間がないという声を時に聞くことがある。しかし，これに関しては，設問（2）「いくら仕事がたまっていても，健康のために無理しない方である」は，有意差がなかった。このことより，未受診者が二次検診を受けない理由としてあげる仕事の忙しさは，本当の理由ではなく，自分の問題（要精密検査を指摘された）を置き換えているとも考えられる。

3）病気一般に対する脆弱感尺度について

病気に対する脆弱感を設問別にみたのが図5～図10である。宗像[1]は，保健行動を優先させる人は，病気に対する脆弱感をもっている人であり，しかも問題や悩みに対して逃避的でなく積極的に対処しようとする傾向をもっ

図5　他の人よりも病気にかかりやすい方である



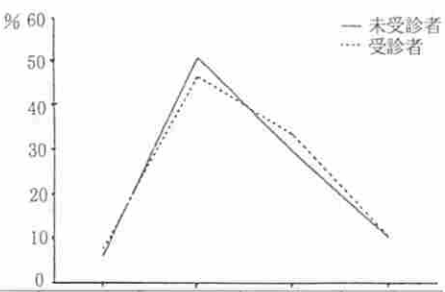
	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	2.5	14.4	53.4	28.8
受診者	4.8	20.7	46.9	26.8

表6　他の人よりも病気にかかりやすい方である

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	20名	97名
受診者	150名	434名

P＜0.05

図6　他の人より病気に対する抵抗力がある



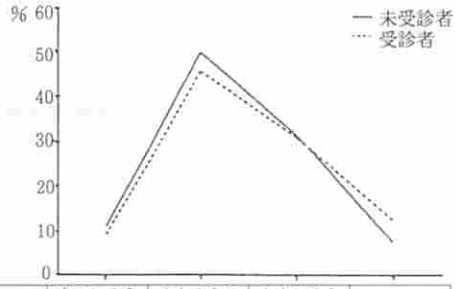
	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	5.9	50.8	29.7	10.2
受診者	7.6	46.5	33.6	10.5

表7　他の人より病気に対する抵抗力がある

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	67名	47名
受診者	319名	260名

た人であると述べている。このように病気に対する脆弱感は，保健行動を優先させるひとつの要因となるはずであるが，これに関しては，未受診者も受診者も差がなかった。図5

図7　どちらかというと丈夫な方でめったに病気にはならないと思う

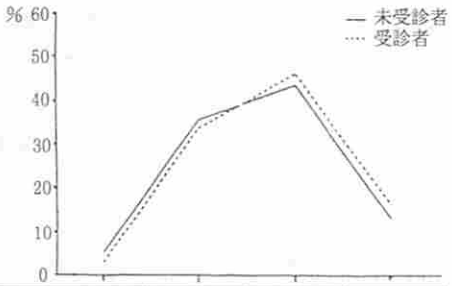


	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	11.0	50.0	31.4	7.6
受診者	9.3	45.7	30.9	12.4

表8　どちらかというと丈夫な方でめったに病気にはならないと思う

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	72名	46名
受診者	324名	255名

図8　自分なりの健康法を実行しているので病気にはならないと思う

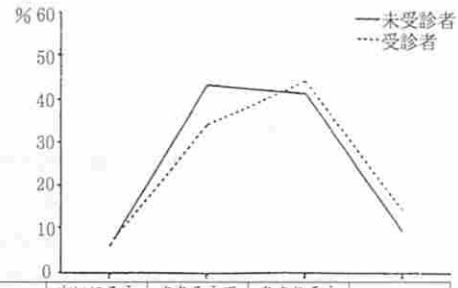


	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	5.1	35.6	43.2	12.7
受診者	2.7	33.6	45.8	16.0

表9　自分なりの健康法を実行しているので病気にはならないと思う

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	48名	66名
受診者	214名	364名

図9　身体には自信がある方である

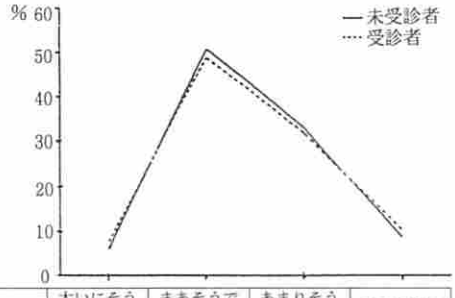


	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	5.9	43.2	41.5	9.3
受診者	6.1	34.1	44.3	14.1

表10　身体には自信がある方である

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	58名	60名
受診者	237名	344名

図10　自分の年齢にふさわしい体力がある



	大いにそうである	まあそうである	あまりそうでない	そうでない
未受診者	5.9	50.8	33.1	8.5
受診者	7.5	48.7	31.9	10.2

表11　自分の年齢にふさわしい体力がある

	大いにそうである まあそうである	あまりそうでない そうでない
未受診者	67名	49名
受診者	331名	248名

㊟　表2～表11で記入もれ，又は二重解答は省いて人数を記載

～図10より病気に対する脆弱感は未受診者も受診者も強くなかった。これは，検診を受ける人は，病気に対する抵抗力もあり，どちらかといえば丈夫な方で，年齢相応の体力があるというように，健康状態にあるという意識が高いといえる。言いかえれば，検診受診者は健康であると自覚しているため，予防的保健行動（例えば検診を受ける等）をとるのであって，病気に対する脆弱感に差がなかったのは理解できる。

4）今後の健康相談

このアンケートから，未受診者は受診者と比べ，日頃から問題や悩みに積極的に対処せず保健行動より生活行動を優先させる傾向があるとわかった。では，未受診者が保健行動を優先するには，どう働きかければよいのだろうか。要二次検診という問題に対して，積極的に対処できるようにアプローチをしていかなければならないと考える。例えば「職場に迷惑がかかるから仕事を休んでまで二次検診を受けない」という人に対しては，放置した場合の健康影響の確認や，どのように受診したらよいのか具体的方法の説明を必要とする場合もあるであろう。また，「精密検査は怖い」という人には，安心して相談できる言葉かけ，自覚症状のない自分の問題に気づく，時には，精密検査はどんなことをするのか説明し受けてみようという気持ちへ導くなど，情緒的に支援することが必要ではないかと考える。

そして，一方的に二次検診を勧めるのではなく，未受診者は健康に対する関心が低いと決めつけないで，個人の背景や受けることのできない理由も考慮しながら，どのようにしたら一番よいのか考えた個別性のある結果報告会にしたいと思う。

今回は，日帰りドックを受診するという，すでに予防的保健行動を実行している人の中で，二次検診を受ける人と受けない人の違いを探るため，アンケート調査を試みた。今回使用したアンケート調査は，身近な人が病気になったり，生きがいをもっている等，環境や時期によって左右されることがあるので，未受診者の性格を探ってみてもよかったのではないかと考える。

ま　と　め

検診受診後，要精密検査と指摘された時に精密検査を受ける人と受けない人の違いを実行要因から探るため，日帰りドック受診者を対象にアンケート調査を試みた。その結果，次のようなことがわかった。

1．精密検査未受診者は，男性に多かった。

2．精密検査未受診者は受診者と比べて保健行動より生活行動を優先させている。

3．保健行動を優先させる要因のひとつである病気一般に対する脆弱感には，未受診者と受診者との間に差はなかった。

引用・参考文献

1）宗像恒次：行動科学からみた健康と病気第1版第8刷発行，メジカルフレンド社，1994.

2）宗像恒次：行動科学に基づく新しい保健指導法，看護展望，16：385-392，1991.

3）ポール・ハーシー，ケネス・H・ブランチャード：山本成二・他，行動科学の展開－人的資源の活用－第14刷，日本生産性本部，1990.

4）中村正和，他：医師による禁煙指導の意義と方法，癌の臨床疫学〔別刷〕，36，1992.

5）坂次順子，他：二次検診の受診率向上の一考察，日本農村医学会雑誌，44（3）453，1995.